

令和6年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6)その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 梶山女学園歴史文化館（「人間論」の自校史教育担当者）

申請組織長 役職名 館長 氏名 梶山美恵子

統括責任者 役職名 情報社会学部教授 氏名 米田公則

課題名 梶山女学園歴史文化館の大学生サポーターの活用による自校史教育の活性化

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	米田公則	情報社会学部・教授	統括・活動評価
		小林正典	企画課・課長	活動評価
		村瀬輝恭	企画課・主任	活動評価

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200字～300字程度で記述)

本事業は、大学1年生の「人間論」の授業で行われる自校史教育の一環で、全学部の学生が歴史文化館に来館し、展示物を見ながらワークシートを記入し、提出する課題に対し、大学生サポーターを導入し、学園の歴史を深く理解する手助けを行い、本学の初年度教育における自校教育の充実に資することを主たる目的とする。

また、令和6年度から、星が丘キャンパスの学生だけではなく、人間関係学部の学生も歴史文化館への来館が必須となることから、学生サポーター要員の充実を図る必要がある。

さらに、学生サポーター自身が学園の歴史を深く理解することにより、学園に対するアイデンティティが強くなることも狙う。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300字程度で記述)

(1) 大学の前期授業期間においては、学生サポーターが「人間論」の授業で来館する学生に、展示品を見せながら、学園の歴史を説明していく。

(2) 大学の後期授業期間においては、学生サポーターが歴史文化館所蔵資料の整理業務や企画展の準備業務（調査関係を含む）などを行いながら、来館者に対し、展示品の説明を行う。

(3) 学生サポーターに対し、基本となる説明台本を作成し、これを基礎として、各自で必要と思われる情報を足しながら、説明ができるように、職員がサポートする。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

学生サポーターによる来館者への説明は、実物の展示品を示して行うことから、説得力が大きく、また、大学1年生にとっては、上級生からの説明は親しみやすいこともあり、課題として提出されたワークシートには、以下のような感想が寄せられている。

- ・大学が歩んできた歴史は、女性を大切に育ててきたことに尽きると思います。この歴史があつてこそ、今私たちは新しい未来へ自信を持って進めるのだと確信しました。
- ・私がこの椋山女学園大学に入学しようと思ったのも、この歴史の長さからでした。「女性の活躍を期待して」という展示パネルで説明があつた愛知県立高等学校の家庭科教員の大半が椋山の出身と聞き、とても驚きました。そして、この学校はとても魅力的だと思いました。これからも女性が活躍できる社会を目指していきたいと思います。
- ・女子大ということもあり、歴史の中に女性の輝かしい功績が多く残っていて、誇らしい気持ちになりました。それと同時に自分も頑張らないといけないし、自立した女性にならないといけないと思いました。
- ・今でも椋山が就職に強いと言われる理由がわかりました。椋山夫妻が女性の職業を奨励し、学校を開設してくださったおかげで、今こうして学べているのだと感じました。

こうした感想は、サポーターによる説明があつての感想であり、大学1年生が大学に入学し、歴史文化館で自分の出発点を見出したことがうかがえる。

また、大学のオープンキャンパスを始めとした見学者に対して、学生サポーターが流暢に説明する姿に、多くの方々から賞賛が寄せられた。

さらに、学生サポーターは、所蔵資料の整理や企画展の準備作業にも関わることにより、展示品をより身近に感じることができるようになり、自分たちで展示品の説明を積極的に行うようになった。そのため、見学者に対して、さらなる好感度が上がっている。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①学生サポーター	②自校史	③初年度教育	④アイデンティティー
⑤出発点	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

展示が多義に渡り、その展示はテーマごとになっていることから、世界の歴史及び日本の歴史と結び付けて説明するために、かなりの時間を要することがある。展示方法の見直しも検討したい。

また、グループを組んで来館する1年生に対して、時々学生サポーターが一人でアプローチを試みても、なかなか積極的に説明が行えない場面があり、今後は、二人以上で説明するなどの指示を職員が出すなどの対策が必要と思われる。